

# 平成28年度 学校評価報告書

## 1 本年度の重点目標

<p>① 学びの集団を育成する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「わかる授業」から「考える授業」へ転換する。</li> <li>・観点に基づいた目標に準拠した評価の導入に取り組む。</li> <li>・シラバスの活用について教科会で検証する。</li> <li>・家庭学習の習慣化と基礎学力の定着を図る。</li> <li>・学校全体で授業力向上や公開研究授業に取り組む。</li> <li>・「朝の読書」を通して学習環境と教養の基盤を作る。</li> </ul> <p>② 制度のカベを越える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会に貢献できる人材を育成する。</li> <li>・目標達成のため適切な情報を提供する。</li> <li>・地域の中学校と連携し交流を推進する。</li> <li>・志教育研究指定校として活動する。</li> </ul> <p>③ 人は人によりて人となる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会等の主体的活動をサポートする。</li> <li>・委員会活動を通して責任感を育成する。</li> <li>・交通ルールや情報ツールのマナーを身につけさせる。</li> </ul>	<p>④ 得意分野を生かす</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科指導でグローバルな視点を語り伝える。</li> <li>・関係機関と連携して交流機会の拡大を図る。</li> <li>・自分の教科指導以外の専門性を常に高める。</li> </ul> <p>⑤ ところに寄り添う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動全体でこころのケアをおこなう。</li> <li>・自分は必要な人間であるという有用感をもたせる。</li> <li>・自分は決して一人ではないという安心感を与える。</li> </ul> <p>⑥ 人類への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験型の防災学習等を実施する。</li> <li>・ボランティアの精神を育成する。</li> <li>・防災交流・国際交流を実施する。</li> </ul>
---	---

## 2 自己評価結果に対する学校関係者評価

A 達成している      B おおよそ達成している      C あまり達成していない      D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
総務関係	① 特色ある学校づくりについて	B	調査結果1・2の割合は、保護者[83%]、生徒[61%]、職員[80%]で、生徒の割合が低い。今年度は被災地で行われる初めての高校生による国際防災フォーラムを実施した。次回には、もっと多くの生徒がその特色を実感できるように海外の生徒達と関わり合える場面を増やすなどの工夫を行う。	A	A
	② 学校生活の充実について	A	調査結果1・2の割合は、保護者[90%]、生徒[79%]、職員[89%]であった。適切に取り組んでいるが、なお、充実した教育活動を目指す。	A	A
	③ 災害・非常時の対応について	A	調査結果1・2の割合は、保護者[85%]、生徒[78%]、職員[87%]であった。防災カレンダーが果たす役割が大きいと考えられる。次年度も各家庭に配付する予定である。	A	A
	④ 学校情報の伝達について	A	調査結果1・2の割合は、保護者[86%]、生徒[82%]、職員[93%]であった。石西高実況中継が大きな役割を果たしている。次年度も継続して学校の情報を伝えていく。	A	A
	⑤ メール配信について	A	調査結果1・2の割合は、保護者[92%]、生徒[71%]、職員[96%]で、生徒の割合がやや低い。台風等の自然災害に対しては即断即決できるものではないこと、そして、そのような状況下で個々人が心掛けておくべきことを生徒に考えさせ、備えさせる。	A	A
	⑥ P T A 活動の活発化について	A	調査結果1・2の割合は、保護者[79%]、職員[89%]であった。P T A 役員を中心とした会員（保護者）の方々のご協力のおかげである。今後も学校と家庭との間で近い関係を築いていく。	A	A
学校関係者評価者による意見		①国際防災フォーラム（国際高校生フォーラムin石巻西高等学校）での様子は、全校生徒が参加の下、全て英語で進められるなど良い内容であった。次年度はさらにアップグレードしたものを期待すると共に、応援もしている。			

学習指導	① 学ぶ意欲を引き出す授業について	C	保護者、生徒からの評価は、ほぼ変わらない。昨年度目標とした「あてはまる」「だいたいあてはまる」の合計85%は達成できなかった。改善に向け、校内研究として生徒が主体的に学ぶアクティブラーニング型の授業・観点別評価の研究をすすめる。	A	A
	② 国際理解教育について	A	保護者・生徒からの評価が前年度に比べ上昇している。本校の総合的な学習の時間においては、防災、進路、国際理解教育を柱として実施しているが、本校が開校当初から掲げる国際理解教育に資する行事を増やしたことが要因と考える。さらに工夫・改善し、生徒の興味や関心を高める行事を目指す。	A	A
	③ シラバスの活用について	B	様式を変え、昨年度から評価がやや上昇した。さらに、授業等での活用を促す。	A	A
	④ 教育課程・選択科目について	B	評価はほぼ変わらない。生徒の選択状況を見ると、進路目標に合わせた選択をしている生徒がほとんどであるが、一部選択がちがはぐな生徒も見られる。シラバスを有効に活用し、自身の進路目標と興味・関心のバランスを考慮し、科目選択指導を行う。	A	A
学校関係者評価者による意見	<p>①新しい取り組みが生徒にはまだ浸透していなかったということなので、今後その取り組みが浸透していけば生徒の評価も上がるのではないかと。</p> <p>①アクティブラーニング型の授業とはどのようなものなのか。また、どこの学校を見学(先進校見学)しに行ったりしているのか。</p>				
進路指導	① 進路目標の明確化について	B	総合的な学習の時間を中心に、進路目標の明確化を促す指導を行っている。しかし主体性に欠ける面が見られるので、今後は自発を促す指導に力を入れていく。	A	A
	② 進路研究の適切さについて	B	内容自体は適切に行われているが、他の行事との関係で適切な時期に進路研究の時間を取れないことがあった。実施時期を検討し、進路研究が継続して行われるような年間計画の見直しを行う。	A	A
	③ 課外講習について	A	希望制にしたことにより進路希望にあった指導が行え、生徒のやる気を引き出した。次年度も今年度と同様の形態で実施する。	A	A
	④ 「進路の手引き」の活用について	C	内容の良いものが作られているが、活用する場面が少ない。総学での活用の場を増やすとともに、各担任、生徒が自ら使うよう声かけをしていく。	A	A
	⑤ 進路行事について	A	充実した内容の行事を提供し、進路決定に役立てている。更に効果が上がるよう次年度に向け行事の見直しを行い、実施時期についてはより適切な時期を検討していく。	A	A
	⑥ 進路に関する情報提供の適切さについて	B	生徒に向けては適切な時期に必要な情報を提供している。保護者に向けては十分と云えず、今後様々な機会を通して必要な情報をこまめに提供していく。	A	A
学校関係者評価者による意見	<p>③なぜ課外講習を希望制にしたのか。子供が部活等を理由に受講しない。以前のように全員参加であれば勉強させられるのだが。</p> <p>④親としては進路の手引きを見るのはおもしろい。子供達にも見て欲しい。</p> <p>⑤進路行事の時期やタイミングは大事。以前は遅い時期に行われていた時もあったが、今後も早めに実施して欲しい。</p>				

生徒指導	① 基本的生活習慣の確立について	B	生徒指導に関する研修会を開き、学年・教員間の生徒指導に対する基準を統一し、また、温度差を改善していく。	A	A
	② いじめ問題に対する早期発見と取り組みについて	B	いじめ対策の方策を周知してもらえるように、活動をオープンにする。	A	A
	③ 部活動の活発化について	B	活動状況を定期的に把握する。	A	A
	④ 生徒会活動の活発化について	A	これまでは、防災関連の活動が目立っていたが、来年度からは校内の活動の活性化を図る。	A	A
	⑤ 学校行事について	A	より生徒の自主的活動を促すように工夫する。	A	A
	⑥ 交通ルール遵守の指導について	B	何件か事故があり残念であった。来年度は危険な箇所のマップの作成などより具体的に指導する。	A	A
	⑦ 生活指導に関する情報提供について	A	学校側から行う情報提供がしっかり保護者に届いているか、保護者面談等を通して確認する。	A	A
	⑧ 週番集会について	A	来年度からは教員の当番をなくし、生徒だけで週番集会を行わせてみる。	A	A
学校関係者評価者による意見	②いじめ対策は扱いが難しい。 ⑥今後、西高の近辺の農免道路等は交通量が増えてくることが予想される。自転車通学者への指導の強化が必要。 ⑥自転車の並列走行により、歩行者と接触しそうになるなどの危険が起りやすい。 ①基本的生活習慣の確立に関しては、家庭での指導も大事。また、やんわりと指導する先生よりも厳しく指導する先生が悪者扱いされている。統一した指導を行って欲しい。				
保健厚生	① 健康の保持増進について	A	生徒の体調不良、けが等の対応はもちろん、本人が抱える健康相談も行った。必要に応じて、病院の紹介や保護者への連絡等も行った。今後は来室時の対応や、集団保健指導を通して、自己管理能力を高めるよう働きかけていく。	A	A
	② 教育相談について	B	生徒や保護者、教員間にSCの必要性や活用方法を保健厚生部中心に情報発信してきた。生徒の相談活動だけでなく、教員内でも相談や情報交換を行った。必要と思われる生徒、家庭をSCにつなぐこともできたが、潜在的需要はまだあるので、今後も担任やSCとの連携を図っていく。	A	A
	③ 環境美化について	B	生徒や教員間の清掃に対する意識を高めるため、委員会の活動に力をいれた。担当分団区表示や放課後放送、学校だよりによる清掃状況の掲載等を実施し、学校全体を活性化させた。今後は清掃方法について共通理解を図る。	A	A
	④ 「健康・安全」の意識向上のための取り組みについて	A	今後も感染症の流行期には、保健委員会による定期的な換気を実施し、感染拡大の防止に努めた。また保健だよりを定期的に発行し、注意喚起を行う。また、職員へ応急手当やノロウイルスに関するマニュアルを配布し、対応について周知を図る。	A	A
学校関係者評価者による意見	特になし				

図書関係	① 読書指導について	A	回答1・2の割合は、保護者[86%]、生徒[79%]、職員[91%]であった。多くの生徒が読書への親しみを感じていることを裏付けているが、クラスによって取り組みの悪さが見受けられる。限られた短い時間だけに、しっかりとした指導を行う。	A	A
学校関係者評価者による意見		特になし			
事務関係	① 施設・設備の整備について	B	大きな予算を伴う案件については、施設整備5か年計画の中で優先順位を付けて年次的に対応せざるを得ない状況にあります。修繕等が遅れている箇所については、計画的な修繕・改修に向けて、県教委への予算要求に努めて参ります。 修繕については、申請等があった都度できるだけ早期に対応するように努めておりますが、事務室で把握できないものについては、先生方や生徒からの速やかな情報提供等が必要ですので、協力をお願いしていきます。	A	A
学校関係者評価者による意見		特になし			

### 3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
① 学ぶ意欲を引き出す授業について	本年度の重点目標の1つである「分かる授業」から「考える授業」への転換として、アクティブラーニングの手法と観点別評価を採り入れるため、先進校見学や研究授業等を実施し、その手法を授業に活用できる職員を増やしてきた。しかし、特にアクティブラーニングを実践できる職員はまだ少数であり、全職員に浸透するまでには時間がかかる。今後とも研修等を継続し、着実にその数を増やしていく。
② 交通ルール遵守の指導、および生徒指導全般について	東日本大震災の被災者向けに整備されている「新蛇田地区」「新蛇田南地区」で、住宅建築に加え、商業施設等の建設が急ピッチで進んでいる。本校を取り巻く環境が変化していく中で、今後ますます交通量が増えていくのは必至である。登下校時における生徒の安全を守るためにも、これまで以上に交通安全に対する指導を学校としても強化していく。具体的には危険箇所のマップを作成し、生徒への周知を徹底すると共に、交通ルールに対する規範意識を高められるよう工夫する。 また、生活指導全般における学校側の指導体制においても、これまで以上に全職員で取り組めるように校内研修等を実施し、職員間の共通意識を高めていく。
③ 「進路の手引き」の活用について	「進路の手引き」自体は「宝の山」とも言えるほど内容も良く仕上がっているため、その活用方法が課題である。「進路研究」は、主に「総合的な学習の時間」の年間計画の一部を割り当てて実施してきたが、その割合を適切に確保できていなかったことがその原因の1つと考えられる。次年度は、適切な時期に適切な時間を割り当てられるように他と調整して計画を練っていく。また、「進路の手引き」の活用においては、担任の力量も問われるので、日常的に使用できる場면을提示するなどして、その活用を促していく。